

【ねがいましては】

平成23年10月25日

KYOWA SCHOOL

第252号

「家族」

以前にも家族と題して書かせていただいたことがあるかもしれません。

今回は前回の「恐怖心」のつづきです。

私は、子どもたちがここから家族を大切に思うことは、子どもを前向きにすると同時に、家族皆が幸せになるための最も大きな条件だと考えています。毎日精一杯に生きようとする我が子を見て、幸せ感を得られないご両親はいないと思います。結果はさておいて、あれだけ毎日精一杯に過ごしている我が子に対し、エールを送らない親はいないと思います。そして親自身も、「こりゃー丁私たちががんばらせていただきますか・・・ご褒美にいつか家族みんなで外食でも行きますか・・・。」そんなご両親を見つめるお子さんも「お父さん、お母さん、あんなに働いてくれてありがとう。お父さん、お母さんがいてくれるから、私もこうやって生きていられる、ありがとう。」

すべてが好循環になります。

子が家族を大切に思うには、それなりの家族の日常が必要です。ご両親の仲が悪かったり、家族間に信頼が漂うことのない環境があったりしますと、当然、子は家族を想うことなどしないでしょう。

信頼は助け合いを生じます。何の見返りも必要としません。お互いがお互いを敬っているわけですから、お手伝いをしたからいくらか、代償など要求するはずもありません。ただただそこには助け合う家族の存在だけです。

今までここへ通ってきた子たちの中で、羨ましいくらいに仲の良い家族を多く見かけてきました。もちろん当たり前のことなのですが、学校の成績は良好でした。これは取るべくして取ったのではなく、自然とついてきたものだと私は感じています。

中の良い家族の中に漂う安心感、たとえ小さなトラブルが学校などで起こったとしても、それは家族間で自然消滅です。辛いことがあっても私には家族がいてくれる・・・。そんな気持ちで学校へ行っている子は、当然いつもニコニコしています。

私はこの小さな教室に『信頼』を大きく掲げています。といっても掲示しているわけではありません。私が何が何でも子どもたちを信頼するのです。今まで何度も嘘をつかれたり、物を持っていかれたり、傷つくことはたくさんありました。でも、それはほんの数人のやったこと、残りの子たちには何の罪もありません。だから相変わらず時々傷ついていますし、私も人間、疑ったりもしてしまいます。しかし、疑う時、ある感情が芽生えます。生きようとする気持ちが全くなくなっていることです。前向きな心です。

そして時間が経過すると、徐々にもとの信頼を掲げます。どれもこれも子どもたちの笑顔が治癒してくれます。

またいつものように「競争なんかないよ、テストもないよ、勉強は助け合うものだよ。」相変わらずの同じことばを並べます。

ここに通うほとんどの子どもたちが、皆、平穏な、静かな時間の流れを望んでいます。特に夜の中学生たちの時間帯は、静かに流れます。うるさいのはただひとり、私だけです。一人ひとりが見せる集中は、理想の雰囲気を作り出します。「学びってこういうことなんだ。学校での結果は確かに不安にはなるけど、でも、ここに来てこうして向かっていると、なぜか安心感に包まれるんだ・・・。だってけっして逃げていないから・・・。」

彼らの表情は自然とこのような声を発しているようです。

前向きに生きようとすることは不安を打ち消し、代わりに安心感を宿します。周りの子たちすべてがこの気持ちに包まれながら向かいます。全員が信頼の中で生活します。

よく見学などのお客様がいらっしやいます。誰というわけなく、お茶が出てきます。椅子が出てきます。お客様は一応に驚かれます。私はお茶をお出ししてとか頼んでなどいません。自然発生的に彼らの心の中に現れる感情なのです。

生きる基本、ことばで教えなくても、彼らの中に漂う『信頼』は、そっとプレゼントを渡してくれています。

「良いこと悪いこと、自分で決めよう！そうやって生きていけばいいからね！」

私がよく使うことばです。その裏にはこんな私の気持ちが隠れています。

「だってさ、いつだって君たちの事、信頼しているから・・・。」

私はひょっとしたら、子どもたちの一番望んでいる家族の姿を演出しているのかもしれない。子どもたちは真の家族、本当の家族を望んでいます。それが叶うことで、彼らは真剣な歩みを始めます。

よくお母さま方から言われること・・・「家ではこんなこと一切やらないんですけどねー。」

どうかひがまないで下さい。彼らは本当はやりたいのです。やりたいのだけれど、その条件が揃っていないと、不満を抱えているのかもしれない。

彼らが真剣に精一杯に机に向かうには、家族がひとつになることだと思います。どうか家族の時間をたくさん持って下さい。そして本音で話し合う時間をたくさん作って下さい。子どもたちは寂しがっています。家族は全員あなたの味方なのだよと、ことばがなくても感じられることのできる家族・・・いいなあ！ 私も家族がほしいなあ！